

報告

第 28 回リハ工学カンファレンス

北九州市立介護実習・普及センター 繁谷 直子

1. はじめに

2013年8月22、23、24日の3日間、岩手県民情報交流センター アイーナにて第28回リハ工学カンファレンスが開催された。今回、このような報告の機会を頂いたので、その感想と見聞したことをまとめて報告する。

2. 学会内容

車いす、住まいづくり、コミュニケーション、義肢装具、計測・評価、機器開発支援、生活環境づくり、特別支援教育、姿勢保持、インタラクティブセッション、学生セッション、英語セッションなど、テーマ別に一般演題が全145題、特別講演が3題あった。今回私は、コミュニケーションと車いすに関する演題を中心に聴講した。どちらもメンテナンスなどの継続的な支援に関する発表が印象的であった。

私は現在、北九州市立介護実習・普及センターで作業療法士として、コミュニケーション機器の紹介や導入支援に関わっている。しかし、メンテナンスに関しては、知識が少なく対応に手間取ってしまうことがある。そのような中、コミュニケーション機器のカスタマーセンター設立への取り組みの発表があった。このようなサービスが全国的に実現することで、継続的かつ充実した支援の向上につながると期待したい。

相談支援機関による他機関連携や、アンケート調査に関する発表もあり現場のニーズを知る参考になった。また、車いすメーカーによる東日本大震災

でのボランティアでは、メンテナンスの要望が多かったという発表や、施設において、管理の負担が一部の職種に偏ってしまったり、メンテナンスが追いついていなかったりといった管理の課題に関する発表があった。一方で、そのような状況に対する取り組みとして、JASPEC（一般社団法人 日本福祉用具評価センター）で行われている「車いす安全整備士養成講座」などがあることを今回情報として知ることができた。研修などで専門職に対して情報を伝達・指導することの多い当センターでも、今後メンテナンスについて改めて、着目していく必要があると感じた。

3. 所感

今回、初めてリハ工学カンファレンスに参加させていただいた。そして、まずその雰囲気と内容に衝撃を感じている。一言で表現するならば、みんなが熱い!ということだ。エンドユーザー、メーカー、専門職など、所属や立場の異なる参加者が、様々なテーマと視点で意見交換する姿はとても新鮮であった。互いに対等な関係の中で、遠慮のない意見や率直な質問と、それに対する具体的な回答が本会をより充実させていたように感じた。

4. おわりに

初めて知る情報はもちろん、改めて福祉用具の奥深さを感じる一方で、もっと知りたい、知らなければならぬと感じた機会であった。

また最後に、懇親会のビンゴ大会において日進医療器株の「座王」が当たるという幸運に恵まれた!! 今では当センター展示場に並ぶ車いすの中心選手として大活躍している。この場を借りて改めて、その心意気に感謝したい。有難うございました。

北九州市立介護実習・普及センター

〒802-8560 福岡県北九州市小倉北区馬借 1-7-1

北九州市総合保健福祉センター 1F